

図書館で  
大山町探求

この夏、図書館本館、分館と道の駅「大山恵みの里」で実施したスタンプラリー「すたでい大山」は、のべ1,300人の方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

本の貸出のほか、大山町を探求するクイズを解いたり、館内に隠れているむきぱんだを探したりのスタンプ集めに、みなさん楽しそうでした。クイズは、初級から上級まであり、答えが探せる地域資料をいっしょに並べました。親子や友達同士で本を開く様子も多く見られ、全問正解する方もいらっしやいました。道の駅「大山恵みの里」でもスタ



▲むきぱんだ見つけた！



▲大山町特産品をどうぞ



▲兄弟で集めました

ンプがもらえるとあつて、家族で行かれた方も多かったようです。スタンプを集めて応募した方には、大山黒豚肉やフルーツなど大山町の特産品が当たるお楽しみもあり、抽選が8月28日に行われました。当選したみなさんは、大山恵みの里公社の齋藤淳専務理事から特産品を手渡され、うれしそうに持ち帰りました。

年長児交流で楽しい仲間作り

名和保育所



▲なにかいるかな？

今年度の名和保育所の年長児は6人です。少人数を活かして異年齢の交流を行い、その中で優しさや、お互いを大切に思ういやりの心を育てています。また豊かな自然環境の中、散歩に出かけ丈夫な身体作りも目指しています。

しかし、同学年での大人数の集団生活を体験する機会が少ないことから、来年同じ小学校に通う、名和地区の年長児が集まる場を設け、一緒に活動していきます。この活動は、子どもたち一人ひとりが集団で遊ぶ楽しさや、仲間がいることのすばらしさなどを感じながら、小学校入学前から子どもたち同士が知り合い、仲良くなることを目的に交流を重ねています。

今年度は、8月9日(木)に光徳保育所近くの海で交流会を行いました。子どもたちは、ほかの保育所の子どもと手をつないで、光徳

保育所から海まで歩いて行ききました。海に着くと、子どもたちは波打ち際に貝やカニを見つけは大はしゃぎ。動きの早いカニを自分で捕まえて、得意そうな笑顔を見せる子もいました。波を怖がって、最初は海に入るのをためらっていた子どもたちも、だんだん慣れてきて、海の中で泳ぐようにもなり、終わりの時間になっても帰りたくない子が続出の磯遊びになりました。

この交流は、これから秋には野山の自然散策、冬には雪遊びを予定しています。これらの活動を通じて、名和地区の子どもたちが仲良くなり、小学校入学後も楽しく過ごしてほしいと願っています。



▲みんなで海に入りました